

小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 24

2017年12月19日(火)発行

発行責任者:草野篤子(白梅学園大学)

TEL: 042-346-5639

住所:〒187-8570

東京都小平市小川町1-830

これからも地域を見据えて、ともに集い・ 活動の展開を

白梅学園大学子ども学部子ども学科

佐々加代子

小平西地区地域ネットワークの活動は、6年を迎えて継続中。現在はこの地域のさまざまな活動についてはニュースを媒介にしながら理解を深めている段階で、ネットワークを生かした相互の生かし方については集う会などを通して、より顔のみえる人と活動が目指されているととらえています。

なかなか会合に参加できないままでしたが、佐々の活動は、白梅学園大学内の子育て広場紅茶の会(主宰)と白梅 in きららへの支援です。14年になります。最長参加親子は12年間でした。現在は1か月から就学前までの子どもたちがほとんどです。赤ちゃんの妊娠時期から出産のち、一人増えた子どもとともに親子での参加もあります。生後まもない乳児のふれあいは学生たちには貴重です。赤ちゃんの誕生でおねえちゃんやお兄ちゃんになった体験の心模様も毎月観察させていただいています。保護者たちは、子どもの見守り、育児相談、リフレッシュ時間の確保、保護者たち同士の交流も得がたいとの感想をいただいています。スタッフは参加する人たちすべてです。継続してきたからこそみえたことも多いです。



西ネットは地域の皆様方とともに基盤づくりを経て、次への段階になってきているととらえています。それぞれの活動の交流は、集いのなかでお顔をみながら深めること、それらが地域に根をはっていくことを祈念しています。

(子育て広場事前打ち合わせ)

小平西地区ネットワークって何？

2012年3月17日に白梅学園大学関係者が様々なNPO、ボランティア団体、民生・児童委員、町内会、大学・学校などに関係する方々に呼びかけて「お互いの顔が見える人間関係が豊かな地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース(団体の担当者でも可)の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん一緒に活動に参加しませんか？

職業能力開発総合大学校

「職業大フォーラム 2017」

— 地域貢献セッションを中心に —

藤原義彦（職業能力開発総合大学校）

職業能力開発総合大学校 (PTU: Polytechnic University) は、西武鉄道小川駅西口から徒歩 5 分ほどの場所にある厚生労働省が所管する省庁大学校で、略称は職業大 (PTU) です。昭和 36 年 (西暦 1961 年) の設立で、公的資格である職業訓練指導員の養成・研修、職業能力開発に関する調査・研究、生産現場で活躍する有為な人材の育成など日本におけるものづくり産業を支える人材の育成が主な役割であり、この人材育成を行うために、一般大学の学部に対応する四年制の総合課程があります。

こういった役割を担う取組みの 1 つである職業大フォーラムは職業能力開発に係る研究成果の発表会です。二日間にわたり開催しており、今回は、その研究発表会の中に新たに「地域貢献」セッションを設け、地域社会において様々な社会貢献活動をされている方々に発表の場を提供することにしました。従来より教員や学生が地域の方々との協働により、テーブル・椅子を製作して小学校に寄贈、なかまちテラスへのイルミネーション設置支援、小中学生へのものづくり体験支援を行うといった活動をしてきましたが、更に取組みを広げようというものです。

今回、学生では、嘉悦大学の高村昌悟氏による「学生による小平ブルーベリーブランド化」、職業大の青木弓子氏による「ライトレースロボット製作教室」の実践報告など、学生以外では、「ほっとスペースさつき」代表の渡辺穂積氏、「みんなでつくる音楽祭 in 小平」前実行委員長の細江卓朗氏、小平市社会教育委員の大杉和美

氏ほか、合わせて 8 組の皆様にご発表いただきました。発表後の質疑応答、トークセッションも含め、大いに盛り上がり有意義なものになったと自負しています。



大学と地域との連携が地域の活性化や人材育成に有用な取組となることの認識の下、来年も本フォーラムに地域との連携をテーマとするセッションを設けることとしています。学生の皆様はもとより、地域で活動されている皆様にも参加・発表・意見交換等をしていただける機会を設けることにより、地域活動に対する理解と意識の高揚に寄与できればと考えています。

小平市包括支援センターを ご存知ですか？

小平市地域包括支援センター 小川ホーム

小林 美穂

地域包括支援センターは、平成18年4月に開設され約10年が過ぎ、少しずつ地域の皆さんに知ってもらえるようになりましたが、まだまだ「何をしているの？」「何をしてくれるの？」などの声が聞こえます。

地域包括支援センターは、高齢者のみなさんが住み慣れた地域で安心した生活を続けられるために必要となる援助や支援を行うために設けられた、高齢者のための総合相談窓口です。

市が設置している機関で、市内に5つの地域包括支援センターと4つの出張所があります。

小川ホームは、小平市の中央西圏域を担当しており、地域の高齢者の暮らしを支えられるよう日々活動しています。

そして平成29年4月より、包括支援センターに2名の生活支援コーディネーターが配置になりました。

では、今度は生活支援コーディネーターとは何？ということになりますよね。

生活支援コーディネーターは、またの名を「地域支え合い推進員」と呼び、自分たちのまち(小平市)をより良くしていくために、地域の様々な活動をつなげ、組み合わせる調整役で、地域の支え合い・助け合いを広めてこと

が役割になります。

「住み慣れた地域で、これからも元気に楽しく住み続けたい！」高齢化の時代を迎えた今、

この思いを形にするためには「支え合い活動」が大切であると思っています。

私たち生活支援コーディネーターは、地域のみなさんと一緒に つながり・ふれあいのある地域を目指して頑張っていきたいと思っています。



(小川西町地区懇談会ー地域包括の在り方を考える)

福島被災地訪問会に参加して

白梅学園大学家族地域支援学科 4年

齊藤千尋



私達は白梅学園大学・山路先生のゼミナールに所属しています。昨年の一つ上の先輩方が福島に行き、今年2月私達も福島に行く機会を頂きました。福島に行ったことがない学生が多く、福島について知りたいという想いで、他大学の学生も含めて21名の学生がツアーに参加しました。

福島に行き、人がいなくなり閑散した街並みや、道路の横に積み上げられている多くの汚染土が目に入りました。被災者の方からお話を伺うことが出来、「心の復興」はまだ終わっていないのだと考えさせられました。

ツアー終了後、学生の私達に出来ることは、ツアーで自分自身が感じたことや、被災者の方の想いを伝えることだと考えました。小平市の市民活動公募事業として

支援を頂き、福島県浪江町の実話をもとにアニメーションや紙芝居を作成している浪江まち物語つたえ隊の方に小平市に来てもらうことが出来ました。講演内容は学生たちのツアー報告・紙芝居とアニメーションの上映・被災者の方のお話でした。紙芝居は通常、浪江まち物語つたえ隊の方のみで行なっていますが、今回は学生たちも参加させて頂きました。今の時代、なかなか紙芝居を見ることがありません。アニメーションと違う点として、紙芝居は生の声で伝えることができると感じました。実際、会場で紙芝居を見て涙を流している方がいっしょり、生の声が一番相手に伝わるといことが分かりました。

講演会には約30名の来訪者があり、その方々に少しでも福島について知って頂く機会ができ、とても感謝しております。東日本大震災・福島第1原発事故について、1人でも多くの人に知っていただくのが、本当の復興です。私達の目的は講演会の参加の有無ではなく、福島のモノを購入したり、被災者の方の話に耳を傾ける人が増えていくことです。

来年で震災から7年目の3月11日を迎えます。被災者に寄り添う日、防災について考える日、自分の愛する家族や友人に感謝する日です。私達は福島に関わり、思いやりや傾聴、伝えることの大切さを学びました。これから社会人として、この経験を活かしていきます。

白梅幼稚園作品展—地域とのかかわり

本橋幸子(白梅幼稚園)

11月下旬、今年も白梅幼稚園の作品展が行われました。子どもたちはあそんで遊んでつくってはあそぶ...を繰り返しています。一人一人の子どもの想いやイメージを大切に発達に合わせて、いろいろな素材に触れる機会を作っています。

今年の作品展は、3歳児は、もの(素材)との出会いを大切にやりたい気持ちを表現しました。4歳児は、感じたり気づいたこと、思いついたことを形にしたり、仲間と遊びがながることで仲間と目的やイメージを共有する面白さを表現しました。5歳児は自分や仲間の得意なやり方もわかりだし、好きなこと、やりたいことから始まり、仲間と一緒につくる世界のイメージを試行錯誤しながら表現しました。



絵画はひとり1枚、今まで描いた絵の中から、その子自身が選んで見せたい絵を決めます。保育者は、その

絵を選んだ子どもの声を聞き、コメントとして載せていきます。

今年の作品展にもたくさんの方々が見にいらしてくださいました。家族はもちろん、祖父母の皆様、知人の方、そして卒園児たちも懐かしさと楽しみから遊びに来ます。また来年度入園してくる小さなお友達には、パンフレットと一緒に小さな画用紙を入れてご案内するので、好きな絵を描いて持ってきてくれます。その絵に園児たちと同じように額をつけて小さなコーナーに展示します。



今年遊びにいらした一人のお母さんが「この絵につけてもらえるのは、この額と同じものでしょうか？」と尋ねてき

ました。「そうですよ」と応えると、「大切に飾ります」ととても喜んでくださり、「一人一人の選んだ絵を、先生方がとても大切にしてくださっているのがよくわかりますね」という、うれしい声もいただきました。



また、地域の方で、散歩の途中で案内を見て立ち寄られた老夫婦の方は、「何か楽しそうなことをしているので見てもいいでしょうか？」と声をかけてくださいました。帰りには「小さな子ども絵ってすごいですね。倒しいですね」と感想をおっしゃっていました。

白梅幼稚園の作品展には、こうしたいろいろな方々に見ていただきながら続いています。来年はぜひ皆さんもお立ち寄りください。お待ちしております。

ほっとスペースさつき第11回ミニバザー

2017年11月12日(日)開催

井原 哲人(白梅学園大学)

11月12日(日曜日)も晴天に恵まれ、さつきには10時ちょっと過ぎに到着した。すでに多くのお客さんで賑わっており、朝一番のお客さんのお目当ては、白梅学園大学の教員であった関谷先生(関谷農園)からの里芋、芋がら、サツマイモ、赤カブ、ちんげん菜、ゆず、小麦粉などである。この新鮮な野菜を求めて開始ちょっと前からお客さんが集まり、この情報を知っているのはもちろん、さつきのスタッフとは顔なじみの常連さんたちである。たまに「あの人、ほら、あそこに住んでいる、〇〇の人」と、名前が出てこないのもご愛敬。もちろん、聞かれた側も名前が出てこない。それでも顔は浮かび、一緒に「誰だっけ…」となる。これも地域での日ごろの付き合いがあってこそそのやりとりである。時に、お客さん同士で品物を進め

あったりする。こうなると、スタッフが誰だか区別がつか



くなる。これはよそ者のなせる業。それでも徐々に顔と名



前が一致するようになってきた。まだまだ地域住民としては半人前。いつも楽しみにしているのは昼食の時間。地域のお母さん方の手作りのおかず。作り方を教えてもらって、家で作ってみるとレパートリーだって増える。いろんな経験値のなせるアイデアも豊富である。今回は、立川の防災センターから頂いた賞味期限前の非常食の五目飯が昼食になっていた。東北の震災支援に行った時以来に食した。おいしい。

賑わっている様子が気になってフラッとよる一見さん。気になるけどなかなか来店できないでいる通行人。いつか常連さんになる日も来るのだろうか。

「わかった会」に参加して

結城(ゆうき) 健三(けんぞう)

私は、今年3月末に全く無職状態になり、妻がかかわっていたこの「わかった会」に出ることにしました。私は大学卒業と同時に都立高校の教員となり、退職後も非常勤として生徒指導や世界史の授業などをしてきました。合計43年の教員生活が終わってもまだ教えることにいくらかの未練があり、いくつかの求職希望を出しました。しかし、4月の時点では声が掛からず、「わかった会」ならばまた教えることができるかと思い参加することにしました。



中学校の学習指導とはどんなものかわからないまま教え始めたものですから、戸惑いもありました。参加してすぐに数学の問題を教えてみました。問題文を見てすぐにできると思い教え始めたのですが、途中で分からなくなりました。結局、生徒と一緒に考えてやっと正解にたどり着くことができました。これも一つの教え方だと思いま

したが、教員体質の私としては納得がいかず、ネット通販で中学校の数学の問題集を1年から3年まで購入して暇に任せて解きました。「素数」や「円周角」など忘れていた語句を取り戻しました。数学は、解き方を教え込んでも、生徒が自分で考え、自分で解ける力を付けなければなりません。つい出しゃばって教えてしまうので、どこまで待つか思考錯誤をしています。

最初は、1年生と小学生を主に担当したのですが、英語の単語を書き写していたり漢字練習をしている生徒が多いので、あまり教える要素はありません。さらに、おしゃべりをしたり、騒ぐ生徒もいて、主に「いかになだめて勉強をさせるか」の指導をしていました。

今は、火曜日の3年生の講座に参加して、社会科の都立高校入試の特色と対策や数学等を教えています。これからは、1・2年生にも、社会科の考え方(歴史の時代区分とその特色など)を教えられたらと思います。

参加して間もない私ですが、生徒がわかった時の笑顔が楽しみで毎週出ています。

「分かった会」の現況

生徒数は中学生25人、小学6年生3人の計28人です。中3の生徒は高校入試受験のため、9月から木曜の他、火曜日にも勉強しています。講師は白梅の女子大生5人を含め17人です。都立高の推薦入試のための「模擬面接」も近く始める予定です。寒さにめげず、みんな勉強に励んでします。(奈良)

第27回西ネット懇談会報告

9月26日18時より小平西ネットの第27回(今年度第2回)懇談会が開催されました。初めに代表の草野氏より挨拶があり、18歳選挙権に触れて、もっと若者たちに選挙について考えてもらう機会が必要であるということに触れられました。引き続いて小平市の小川1丁目児童館館長(以下1丁目児童館)の毛利拓夫氏より、開館以来、1丁目児童館には多くの子どもたちや親子の参加があり、居場所として大いに役に立っている様子が報告されました。参加人数も増加しており、子どもたちの安全への配慮も大変になってきているとのことでした。

1丁目児童館は開発地域の中に作られたこともあって、畑の中に位置し、決して交通の便はよくありませんが、バスや電車を乗り継いで訪ねてくる親子もあり、更に充実した内容づくりを進めたいとのことでした。また近隣には白

梅学園だけでなく、武蔵野美術大学やその他の機関もあるので協力しながら子どもたちの環境作りをすすめていとのことでした。

1丁目児童館では、ただ児童館の中だけで子どもをむかえるだけでなく、各地の地域センターに出向いて出張広場を行ったり、様々なイベントを通してより多くの子どもたちの要求に応じていく機会を作ってきています。地域の民生児童委員や自治会の代表などを呼んで行う懇談会等も重視しています。

7時過ぎからは4つのブロックに分かれてそれぞれの地域課題について懇談を深めました。参加者は30人ということで決して多くはありませんでしたが、それぞれのテーマについて話し合いを行い、8時過ぎに終わりました。(瀧口)

西ネット・コミュニティ短歌

元白梅学園大学教授・元白梅幼稚園園長

金田利子

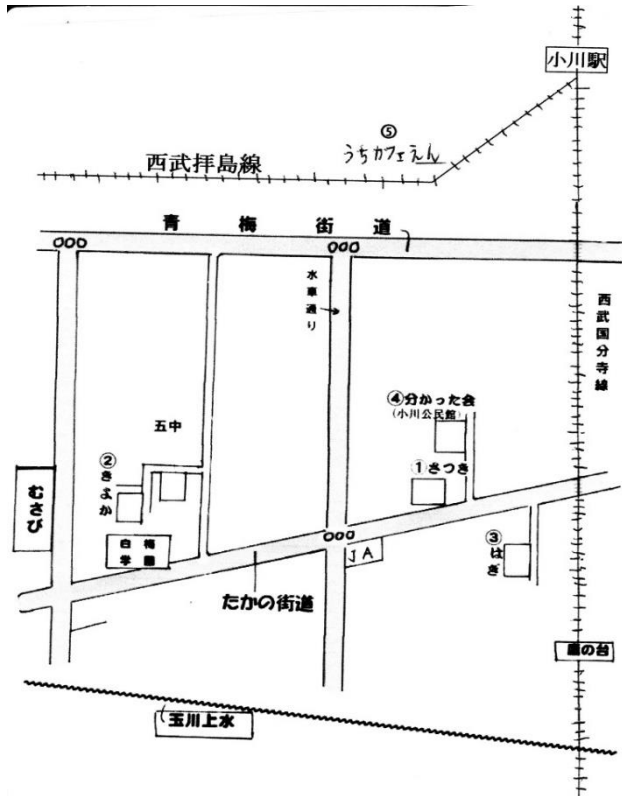
- ☆妻亡くし その存在の ありがたさ
つくづく語る Aさん素敵
- ☆その話 じっと聴き入る Bさんも
妻は隣室 女性の群れに
- ☆ハイハイの 赤子にじっと 見つめられ
グランパ世代 ジェスチャにこにこ
- ☆ある時は 老若男女 異文化も
共に集いて 絵手紙交わす

(小平西ネットコミュニティ・サロン「ほっとスペース きよか」にて)

皆さん、コミュニティ・サロン(下の①～⑤)と「中学生勉強会」(④)に足を運んでみませんか?

お待ちしております! (右の地図を参照)

- ① **ほっとスペースさつき**
毎週火曜と木曜 10:00~16:00
問い合わせ: 渡辺 穂積
TEL: 042-344-7412
- ② **ほっとスペースきよか**
毎週月曜 10:00~15:30
問い合わせ: 石川 貞子
TEL: 090-7732-2089
- ③ **アットホームはぎ**
毎月 7, 17, 27日: 14:00~17:00
問い合わせ: 萩谷 洋子: 042-342-1738
- ④ **「分かった会」小中無科学習教室**
毎週木曜日 18:00~20:30 (小川公民館)
問い合わせ: 奈良 勝行 (講師募集中!)
TEL: 090-4435-4306
- ⑤ **子育てサロン「うちカフェん」(小川町)**
毎週月・水・木・土 10:00~15:30分
問い合わせ: 伊藤絹代
TEL: 090-5441-6219



西ネットの今後の予定
 学内会議: 1/9, 1/30
 世話人会: 2/6
 懇談会: 3/10

イベントの予定

- 2月06日(火) 西ネット地域世話人会
- 2月16日(金) 小平市障害者福祉センター地域懇談会
- 3月10日(土) 15時~西ネット第26回懇談会

西ネットの世話人

ブロック	地域世話人	学内世話人
1	西 克彦・丸山安三	瀧口 優・杉本豊和 福丸由佳・山路憲夫
2	足立隆子・芳井正彦・ 今野志保子	午頭潤子・土川洋子 吉村季織
3	石川貞子・大内智恵子・ 久保田進・穂積健児・ 杉浦博道・吉田徹	金田利子・草野篤子 瀧口真央・西方規恵 牧野晶哲
4	桜田 誠・萩谷洋子 福井正徳・細江卓朗 渡辺穂積	井原哲人・森山千賀子
全体		奈良勝行・長谷川俊雄

お願い: この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体(者)の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当(奈良まで)お申し出下さい。

投稿募集: このニューズレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください(奈良勝行)。
 メール: everonward.nara@xd5.sonet.ne.jp

編集後記: 「小平西ネット」も広く地域に知られるようになってきています。近隣の地域センターや公民館などにもこのニュースを置いてもらい、それを読んで参加する方々もいます。私たちは、地域の取組みをつなぎながら顔の見える地域づくりを目指しています。皆様の積極的な参加をお願いします。原稿を寄せて頂いた方々、ありがとうございました(瀧口)。